

●テーマセッション

「組織に関わる長期的定点観測のススメ –事例を通して理解する技法・困難・知見–」

◎藤本 昌代 （同志社大学大学院 社会学研究科 教授）

高橋 伸夫 （東京大学大学院 経済学研究科 教授）

園田 茂人氏（東京大学 東洋文化研究所 教授）

ワークショップ形式

〔 概 要 〕

本セッションは、組織に関わる長期的定点観測に関する内容と調査方法（対象者へのアプローチ、調査トラブル、分析視点）についてお話をさせていただきます。1 つめは代表者により、国立研究機関から独立行政法人へと大幅な制度変革、組織再編を実施された組織の定点観測、具体的には成員がどのような影響を受け、10 年後にどのように環境に適応し（あるいは、せず）、また新たな環境を作っていくのかという点などの組織状態の違いについてお話し致します。2 つめは高橋先生により、打診調査法と名付けられた同一組織に対する連続的定点観測、具体的には大幅な組織再編がなされた大企業 X 社に対して 10 年間に 9 回もの全数調査を実施された 1 年単位の変化を記録された研究についてお話し頂きます。3 つめは園田先生により、アジア地域の日系企業で働く人々を対象にした定点観測、具体的にはタイ・マレーシア・インドネシア・中国・台湾における日系企業で働く現地従業員による日本人や日系企業に対する評価や企業選好の 15 年間の変化をほぼ同じ調査票を用いて比較された研究についてお話し頂きます。

その後、すでに行われている長期的な調査について、ご参加の先生方からもご披露頂けたらと思います。また、多様なディシプリンの研究者の視点による重層的な研究を行う上で、チームワークやアプローチの違いをどのように組み合わせていくかなどについても、ご意見を頂ければと思います。

〔 参加者へのメッセージ 〕

10 月 20 日(日) 11:00~12:20 開催(C 会場:1-303)

本セッションは 3 人の研究者によるこれまでの調査の経緯（対象者へのアプローチ、調査トラブル、分析視点）についてお話をさせて頂き、その後、みなさまの調査経験、調査に関するご意見の交換の場に来たらと考えています。会員各位の研究調査に関する多様な手法、調査における苦労、調査トラブルの対処法などについて、活発な意見交換および若手研究者への情報提供、そして若手研究者が質問をできる場になればと考えています。ベテラン研究者の先生方のお話、若手研究者の工夫、大学院生の方々が困っていることなど、いろいろな観点からディスカッションができればと思います。どうぞよろしくお願い致します。